

# TOKIWA

2024  
.....  
AUTUMN  
.....  
vol.217

INTERVIEW

ご利用者と事業者との橋渡し役



今回の広報誌「TOKIWA」秋号では、千葉市介護相談員の石澤秀様と大中紀美子様にインタビューしました。ときわ園は、千葉市から派遣されるお二人の訪問を毎月受けております。

### 一 千葉市介護相談員の活動内容をお知らせいただけますか？

**石澤様**：介護相談員は、介護サービス相談・地域づくり連絡会が主催する養成・現場研修、スキルアップを目的とする現任研修を全国の介護相談員と行います。各施設を訪問し、ご利用者やご家族の疑問や不安に対し、サービス改善方法等を検討、事業所の職員の相談も受け、ご利用者等と事業者の橋渡し役の活動をしております。

**大中様**：介護相談員は、千葉市の介護相談員派遣等事業として、希望する事業所に2人1組で月1回程度訪問しています。ご利用者のお話を聞き、疑問や不満、不安を受け付け、事業所や行政に橋渡しをしながら、問題の改善や介護サービスの質の向上を図ることを目指して活動しています。

### 一 介護相談員に関わるようになったのはどうしてですか？

**石澤様**：リタイアしてからは介護に関わりたいと思い、初任者研修を経て、介護福祉士の資格を取りました。ボランティアで高齢者施設にて通院専門の付き添い業務を行うと、私が一緒にいることで安心してくださり、笑顔を見せてくださることが喜びでした。

**大中様**：介護職としてデイケアで7年間、ケアマネージャーとして14年間勤めました。退職後、街中で高齢者を見かけると気になって仕方ない自

分に気付きました。介護相談員になることで、人生の大先輩である高齢者とまた接することができると思いで、関わらせていただいています。

### 一 この活動をされてどんな点が良かったと思われるか？

**石澤様**：多くの方からお話を聞くことができ、歩いてきた人生、これから歩いていくと思う人生を教えてください、私とお話ができ「良かった」「楽しかった」と喜んでいただき、私の手を触って、「お父さんの手だ」「息子の手だ」と喜んでくれること、何よりも「また来てください」の言葉が一番嬉しく思って活動しております。

**大中様**：大好きな高齢者とお話できることがいちばんの喜びです。ご利用者から「聞いてくれてありがとう」と言ってくれと嬉しくなります。ご利用者からの要望を事業者にお伝えして実現したときは、この活動をしていて良かったと思います。

### 一 ときわ園の魅力をお聞かせください。

**石澤様**：誰でも思う、誰でも言葉に出すことと思いますが、自然に囲まれた事業所です。春は花が咲き、夏は緑の匂い、秋は紅葉の景色、冬は安らぐ静けさ、と環境抜群の施設です。介護職員の教育された言動、明るい環境、ご利用者第一の運営が素晴ら



千葉市介護相談員  
大中紀美子様 / 石澤秀様

しい魅力です。

**大中様**：何といってもこの自然豊かな立地です。春には鶯が鳴き、夏には蝉の声が聞こえ、遊歩道には季節の花が咲いており、敷地内で散歩ができるのは素晴らしい環境です。また職員さんが明るく元気にご利用者に声掛けしている姿を見かけると、私自身も心が温かくなります。

### 一 ときわ園には今後どんなことを期待しますか？

**石澤様**：コロナ感染時の感染対策が大変素晴らしく良かったと思っております。外国の介護職員の方にも、徹底した対策・意義を伝え、感心いたしました。今後も外国籍の介護職員を採用して、日本の介護職員と外国の職員とで、一緒に高いレベルの介護活動ができるように期待をいたします。

**大中様**：介護相談員としての気付きやご利用者の声をお伝えすると、すぐに対応していただいています。今後も、ご利用者やご家族・外部の方からの意見を取り入れ、職員さんも含め、皆さんが笑顔で安心して過ごせる施設であり続けていただきたいと思います。

石澤様・大中様、この度はインタビューに応じてくださりありがとうございました。



介護相談員の役割を説明する石澤様



ご利用者と話される大中様

## 働くシニア

最近は何の業界でも人手不足が深刻化していて、定年延長や高齢者の就業が推奨されています。働く高齢者が増えた結果、65歳以上の就業者数は914万人となり、20年連続で過去最多を更新したというデータが政府から公表されました。日本で働く人の約7人に1人が高齢者ということになります。また、医療・福祉業界でも65歳以上の就業者は10年前の約2.4倍に増加しているそうです。働く理由については、健康維持のため、生活維持のため、時間が余っているから、やりがいを得たいからという動機が多いようです。

一方で、働く高齢者の増加に伴い高齢者の労災が増加しているという報告があります。労災は年齢を重ねるほど発生しやすい傾向にあり、60代以上と30代を比べると、男性でおよそ2倍、女性でおよそ4倍起きやすいそうです。

ときわ園では現在65歳以上のシニア職員が職員全体の割合近くを占めていますが、今後更に増加していくかもしれません。こうした状況から、シニア職員が安全にやりがいをもって働くことができる職場環境を作っていくことの必要性を感じています。ときわ園では、腰痛予防を目的とした介護技術を学ぶ園内研修を実施するなどの取り組みをしています。

ときわ園職員心得の最初の言葉は「安全」です。そして、「知恵は身の守り」となります。引き続き、ときわ園では職場内研修や安全な作業に寄与する道具や器具の活用など、知恵を絞りながらご利用者と職員双方にとって安全な環境作りを追求していきたいと思っています。



理事長  
三枝 弘朋



## 母校はやはり素晴らしい

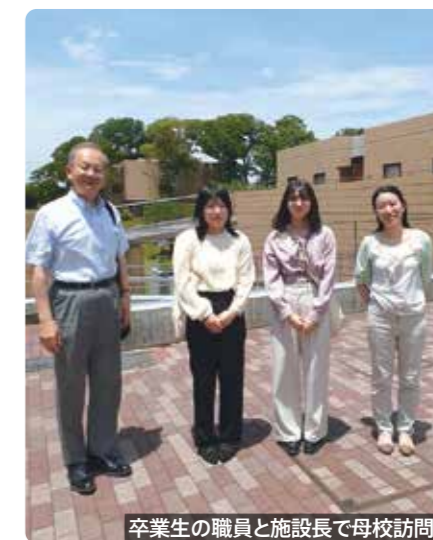
6月25日、施設長と、ときわ園で働く淑徳大学卒業の介護職員3名で、淑徳大学佐藤ゼミ(4年生)の講義に参加させていただきました。講義では、施設長からときわ園の紹介や介護職員採用の現状、介護報酬改定について話がありました。介護職員からは、従来型、ユニット型で働いて感じることを伝えたり、これから社会に出る学生さんたちに就職先を考えていく上でアドバイスをさせていただいたりしました。

講義の後には、昨年社会福祉士の

実習に来た学生さんとお話することができ、実習の苦労や国家試験対策など学生時代を思い出し、懐かしく感じました。

淑徳大学の卒業生の中には、福祉従事者として活躍している先輩・後輩が沢山います。学生が卒業後、それぞれの道で希望や理想をもって活躍する姿を見たいと思いました。今回は、ときわ園を知ってもらえたので、その上で、興味をもって就職してくれる卒業生と一緒に働くことができたら、楽しいだろうと想像しています。

本館介護主任  
鶴澤 和代



卒業生の職員と施設長で母校訪問

# デイサービスの活動

季節があっという間に夏へと変わり、フロア越しから見える広い畑での夏野菜のキュウリ、ミニトマト、オクラ、唐辛子が元気に育ち収穫することができました。屋外歩行では、桜の下にある紫陽花の花を見つ季節を感じていただきながら、記念撮影をされるご利用者も多くいらっしゃいました。

工作レクリエーションは季節感のある、紫陽花マグネットを好きな色のフラワーペーパーを選び作成されました。



青空と紫陽花と



訓練中ですが一休憩



綺麗な紫陽花ですね！



日日草との記念撮影



紫陽花と共に



夏野菜、収穫しました



園芸活動、一休憩



水撒き大事！



お誕生日！



新しいお仲間です！



短冊飾り



願いを込めながら...



カレンダー作成



綿あめ作り！



甘い、甘い



大きな綿あめ



レクリエーション優勝



出来上がり！



満面の笑み



工作完成です！



日日草を植えました

## 事業所訪問たゆみなく

デイサービスセンターこもれび  
相談員 近藤 杏奈



事業所訪問を行うにあたり、ケアマネジャーとの信頼を深めることはとても大切なことだと思います。信頼関係を築いていくために定期的に事業所への訪問をさせていただき、ご利用者の日々の様子やモニタリング等を報告しながら、必要な情報を共有することでケアマネジャーとの信頼を深めていけます。そのようにして、お互いに連携を図りながら、より良いサービスの提供を目指しています。

新規ご利用者の紹介をしていただ

くにも、「どなたかご紹介ください」だけではなく、デイサービスセンターこもれびの特色をしっかり伝えていくことで、新規ご利用者の紹介に結び付けていけるのではないかと思います。こもれびでは、現在の在宅生活が継続できるよう自立支援と機能訓練に重きを置いています。そして、職員を含めみんなが仲良く、温かみのあるアットホームな雰囲気も特徴となっています。

今後も定期的に事業所訪問を行い

ながら、ケアマネジャーの皆様やご家族と連携を図り、より良いサービスを提供してまいります。



事業所訪問する近藤相談員

## 茶娘登場！

管理栄養士  
岩井 潮里



毎年恒例の茶娘イベントが開催されました。食事提供を委託しているエムサービス株式会社より茶娘の衣装と新茶を提供していただき、介護スタッフが茶娘姿でおやつの時間にご利用者に新茶を注いでまわりました。新人スタッフが茶娘になるのが恒例です。たすきのかけ方が分からず、とりあえずと結んだところ、「結び方が違うよ」とご利用者から結び方をご指導いただく場面も。今年は平野介護職員も茶娘姿で参加し、茶摘み歌

の音頭を取り、皆様と歌を歌いながら手遊びを披露。「懐かしい」と、手拍子をしながら一緒に歌うご利用者の姿も見られました。大きな急須で新茶（屋久島茶）を注いで回り、お茶のお味については「おいしい。香りがいい」とおっしゃって下さる方もいましたが、「まあまあかな？」とおっしゃる方が大半でした。「また来年もよろしく」と声がかかり、いつも静かなおやつの時間ですが、ご利用者が声を上げ、一緒になって笑う姿が見られた

ことが、職員一同、何よりも嬉しく感じました。



職員が仲良く手拍子を取り盛り上がる

## 理想的な移乗を実現したい！ ～基本移乗研修～

介護職長  
平野 広美



令和6年6月19日、26日、7月10日の3回に分け、特別養護老人ホームときわ園では、千葉県千葉リハビリテーションセンター地域リハ推進部の皆様にお越しいただき移乗研修を行いました。参加対象者はときわ園での業務経験3年以上の職員とし、ベテラン職員に初心に帰り基礎をもう一度確認し、全職員が同じケアを身につけ、誰が介助しても同じケアができるようにしたいという思いと、腰痛予防の観点から、今回生活相談主任が主となり何度もリハビリセンター推進部の方と相談、打ち合わせを行い実現いたしました。

実際に研修を受けた職員の感想は「すごい！早く利用者さんに介助をしたいや」「こちらの利用者様にはこの方法がいいね」と皆、目を輝かせ、真剣に講師である理学療法士の話聞きながら、こんな時はどうすればよいのか？ 今ご利用者でこの

ような方がいて、どうしたら負担なくできるのか？等々、普段業務で課題になっている事柄も聞くことができました。また用具を使用しての介助方法も学び、ご利用者、介助者ともに負担なく行える技術の習得ができました。用具があってもきちんとした使用方法で行うことができているか？と振り返りを行うこともでき大変満足できる内容の研修でした。ときわ園の心得の一つに「丁寧な介護」とあります。ご利用者一人一人の状況に合わせて安心、安全なケアが提供できるように介護職全員が基礎的な知識を持つことで、そこから応用にも発展できると考えております。介護する側も、される側も負担なく介助が行えることが何より大事だと考えます。

腰痛への不安を抱いている職員もいます。衛生委員会においてもこうした課題を取り上げることも少なくありません。日々の業務の中で予防する

こともできると思います。例えば、排泄介助時にベッドの高さを変える、中腰では行わない等。しかし中には、ベッドの高さを変えずにそのまま行っている職員が見られます。その職員に話を聞くと「ベッドの高さを動かしている時間があったくないから」と。しかしそれでは長く介護職として働くことが難しくなってしまう可能性が高いのです。現在日本全体で介護職不足と言われています。求人を出してもなかなか来ないのが現状です。これ以上介護人材が減ってしまわないよう施設でも対策を行い、一人でも多くの人が福祉業界に従事してほしいと思っています。ときわ園では今後も定期的な研修を行い、職員のスキルアップ、腰痛予防に取り組み、ご利用者、職員ともに負担なく安全な介護を実施していきたいと考えております。



熱心な移乗指導の様子

## どう取り組むか 生産性向上

事務長  
石本 春樹



今年度の介護報酬改定により、「生産性向上推進体制加算」が新たに導入されました。この加算は、介護業界における効率性や生産性を向上させることを目的としており、社会福祉法人常盤会でも算定することとなりました。

効率化と生産性向上が求められる時代において、この加算は、福祉業界にとっては苦手分野の克服という試練であると言えますが、無駄やムラを減らし、より質の高いサービスを提供することや労働環境の整

備に繋がるものと考えられます。

この加算の算定により常盤会が取り組むべき事柄は、委員会の設置、テクノロジー活用、職場環境の改善と、大きく3点となっておりますが、これらは福祉の本質はそのままに、そしてその充実を図るためのステップだと言えます。ICTツールの導入や効率化を進めることで、サービスの質を向上させたいと考えますので、引き続き、ご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。



ICT化に向けたデータ処理を行う事務長

## 安全第一

施設長  
酒井 章年



幾度に渡る延期を経て、2024年6月5日、待望のボーイング社の有人宇宙船スターライナーがアトラスVロケットによって打ち上げられました。搭乗したのはNASAのベテラン宇宙飛行士、ブッチ・ウィルモア氏とスニータ・ウィリアムズ氏。無事に打ち上がり、国際宇宙ステーション (ISS) にドッキング。ISS滞在期間は7日間の予定でした。

ところが、軌道上でヘリウム漏れやスラスタの問題が発生。帰還をどうするか、2人の宇宙飛行士はISS上でNASAの判断を待ちます。ついに8月24日、NASAはスターライナーでの有人帰還を断念、2人の宇宙飛行士は来年2月に別の宇宙船クルードラゴンで帰還することになりました。ISS滞在が7日間から7カ月に伸びたこととなります。

NASAも2人の宇宙飛行士も新型宇宙船で地球に戻り、最初のフライトを成功させたいと強く願っていました。でもそこは「安全第一」、自

らの願望を抑え人命を第一にしたこの判断は称賛に値します。ときわ園でも、「安全第一」を心がけていきたいと思ひます。



宇宙飛行士ブッチ・ウィルモア氏とスニータ・ウィリアムズ氏 (NASA提供)

# 活動ログ

7/1

## ボランティアの皆さんとの会食

ときわ園では多くのボランティアの方々が働いてくださっており、園庭作業をするボランティアの方々もいらっしゃいます。ときわ園には広い敷地と緑がありますが、これらを管理するには多くの人手が必要です。ボランティアの皆さんの働きにより日々大いに助けられております。

そんな園庭ボランティアの皆様へ、日頃の感謝を込めて昼食会を行いました。コロナ期間中はこうした食事会を行うことはできませんでしたが、久しぶりの昼食会です。今後ともお体に気を付けながら園庭ボランティアとしてご活躍いただければ幸いです。



ボランティアの皆さんと昼食会

7/8

## 多職種連携セミナー

井上記念病院地域連携室の看護師長 高橋順子様を招き、多職種連携をテーマに施設内研修を実施しました。

今回は施設と病院との連携について、病院側でどのように入院退院の手続きを行っているのか、地域の施設とどのような関わりをもって患者様支援をしているのか理解できました。ときわ園内では介護保険内での仕組みはよく理解

されていますが、病院内での患者様支援の仕組みや病院と施設との連携についての知識は不十分なところがありました。それだけに、今回の研修の内容は大変意義深いものでした。

今後も地域の病院との連携をよく図り、ご利用者の支援に努めてまいります。



多職種連携セミナー

8/19

## スイカで暑さを吹き飛ばせ!

今年の夏も天気予報をみると猛暑というのを耳にすることが多いです。本館1階では、「スイカを食べて、暑さを吹き飛ばせ!」と銘打って、8月6日に八街産大玉スイカをみんなで食べました。立派なスイカを見て盛り上がり、叩いて音を確認してみたり、手に取ってみたり… 8kgほどあるスイカを持つご利用者はごくわずか、他の方は小玉スイカを持ち上げて記念写真を撮りました。スイカはみずみずしく甘くて、おかわりする方が続出しました (\*^▽^\*)

暑さに負けず元気いっぱいの日を送っていただけるよう力が出る夏のイベントでした。



立派なスイカを持ち上げるご利用者

## 編集後記

今年の夏は今まで以上に暑い夏だったのではないのでしょうか。台風の到来にも神経を使います。新型ウィルス感染症も相変わらず猛威を振るっています。挙げてみると、私たちにとってマイナス要因となる要素はたくさん存在しています。ただ、そこばかりに目を向けていると、私たち自身のモチベーションが下がってしまいますので、常に良い面に意識的に注意を向け、プラス思考を保っていききたいものです。今回の広報誌の内容もその面でお役に立てればと思います。秋には秋の良さがたくさんありますので、皆様も秋の季節のすばらしさをじっくり満喫してください。

